

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	1471001378
法人名	有限会社 リラ福祉サービス
事業所名	こすずめの里
訪問調査日	平成20年2月18日
評価確定日	平成20年3月28日
評価機関名	株式会社 R-CORPORATION

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成 20年 3月28日

【評価実施概要】

事業所番号	1471001378
法人名	有限会社 リラ福祉サービス
事業所名	こすずめの里
所在地	244-0004 横浜市戸塚区小雀町2058-11 (電話) 045-852-0362

評価機関名	株式会社 R-CORPORATION		
所在地	221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町3-30-8 SYビル2F		
訪問調査日	平成20年2月18日	評価確定日	平成20年3月28日

【情報提供票より】(平成20年2月3日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・(平成) 16年 11月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	15 人	常勤 2人, 非常勤 13人, 常勤換算 4.4人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り		
	1階建ての	1階 ~	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	65,000 円	その他の経費(月額)	10,522 円	
敷金	有(円)	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(100,000 円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	250 円	昼食	350 円
	夕食	450 円	おやつ	200 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(2月3日現在)

利用者人数	9名	男性	名	女性	9名
要介護1	1名	要介護2	名		
要介護3	5名	要介護4	名		
要介護5	3名	要支援2	名		
年齢	平均 85歳	最低	67歳	最高	96歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	グラニ&グランドクリニック(湘南クリニック)
---------	------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

平成16年11月に開所した1ユニット、平屋建てのグループホームである。経営は有限会社リラ福祉サービスで、付帯事業として居宅、訪問介護事業が併設されている。JR大船駅の北で、駅からバスで10分程度のところにある。国道1号線で交通要所として有名な原宿交差点から近いが、丘の上に位置する為、自然が残り、畑もあり、散歩にも適した閑静な環境にある。ホームから富士山が見渡せ、朝日、夕日も望める。代表個人の経営であり、代表のお母さんが病気の介護を経験し、お亡くなりになった後、その介護の経験を社会に還元したいと考えたのが開設の動機とのことである。建物の周囲は余裕があって、会長が丹精して実のなる木や野菜、山菜を育て、入居者は収穫を楽しみにしている。グループホームに認知症デイサービス、ショートステイを機能追加し、地域との双方向の交流を促進している。付帯事業としての居宅、訪問介護事業の展開でも地域との交流は促進されており、このたび設定した運営推進会議の活用も併せて地域との強い密着が推進されつつある。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回評価での指摘事項は無かったが、平成19年11月の指定認知症対応型通所介護(デイサービス)及び短期利用共同生活介護(ショートステイ)の開設に先立ち、諸手続き、職員の研修及びホーム内の体制固めを行い、開設後は既存入居者が混乱しないようスムーズな導入を図り、デイ、ショートが出来る体制固めを中心に展開した。入居者、ご家族に混乱は無く、むしろ外来者を受け入れる気持ちと多少の緊張感や身だしなみといった面で良い影響が見られ満足している。現状維持に汲々とせず、1つ上のケアを目指す体制が見られ素晴らしい。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 今回の外部評価については全体のケアを振り返る好機と受け止めている。自己評価については現管理者が自宅の介護の事情で急に退職されることとなり、新旧担当者とケアマネジャー(看護師でもある)の3人で引継ぎも兼ねて作成したので、職員に展開出来なかった反省があるが、出来た自己評価を充分説明した。来年度は全員に展開したいと考えている。</p>
	②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は横浜市及び戸塚区から開催促進の説明会があって間もない平成19年7月12日に帯1回目を開催した。戸塚区から各自治会長に協力の要請が流れていて、自治会長にお話すると協力的にお話を聞いて頂いた。但し、自治会長は日中仕事を持った方で自分が出席するのは難しいと云われ代理の方を指名して頂いた。メンバーは推薦された町内会役員の方、地域代表として元消防署署長、民生委員、ご家族(3名)地域包括支援センター(原宿ケアプラザ)の方で行った。地域・行政・ホームの情報交流はホーム以外でも効果的な会であった。</p>
重点項目	③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) ほとんどのご家族が月2回以上は訪問されており、ご家族との認識の違いによる意見の食い違いは無い。情報については毎月「こすずめ便り」を請求書と一緒に届けている。「こすずめ便り」は生活記録、診療報告、バイタルデータ報告、行事等の報告と云う構成になっていて、行事等については共通報告事項で印刷されたもの、他の3つは個人データと個人の生活を手書きでお知らせしている。デイ、ショートの開始も行事等の欄に記載しお知らせしている。デイにより良い刺激を受け、エキサイズもカラオケを含め活発となっている。</p>
重点項目	④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 運営推進会議の話で近所の方がホームの入居者が散歩するのを好意を持って見てくれていることを知った。またグループホームの興味を持っていることも分かった。市民農園の人が散歩道の道端に入居者が散歩で見られるようにひまわりや菜の花を季節に植えてくれていることも知り嬉しかった。職員は殆どは地域の人で前の奥さんなども手伝ってくれている。元消防署署長も斜め前の方であり近隣に支えられている。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	認知症があっても普通に人生を全うできるようにスタッフと共に事業所独自の理念をつくりあげている。1人でも多くの人に「認知症の正しい理解」をしていただけるよう努力したい。	○	地域密着型サービス推進により「認知症の正しい理解」を推進して行く。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者とスタッフは日々の実践の中で実行している。スタッフの個々の認識が理念の共有につながっている。	○	理念を作り3年経過している。地域密着を組み込んだ更に進化したものを全員で作りたい。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し地域の行事(ゴミ拾い)は必ず参加している。事業所の催物時は近隣に声を掛けている。市民農園の人が散歩道の道端に入居者が散歩で見られるようにひまわりや菜の花を季節に植えてくれていることも知り嬉しかった。職員は殆どは地域の人で前の奥さんなども手伝ってくれている。元消防署署長も斜め前の方であり近隣に支えられている。		今後もこの関係を維持継続して行きたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	1年に1回全体のケアを振り返る好機と受け止めている。評価をスタッフ全員で共有し次に向けての目標、心の糧として活かしていけるように努力している。		自己評価が職員全員できるように心掛けていきたい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	夫々の立場から忌憚のない意見を聞き又、理解し合える場としてサービス向上に繋げるように努力している。地域・行政・ホームの情報交流はホーム以外の方々にも効果的な会であった。		ホーム側の出席者を固定せずスタッフの研修も兼ねられる場として取り組みたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	戸塚区高齢支援担当者・原宿地域ケアプラザとは連携がありサービス向上に取り組んでいる。特養待機3年の利用者がいるので相談の回数が増えている。		今後もこの関係を維持継続して行きたい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月「こすずめ便り」で報告している。生活記録、診療報告、バイタル、体重測定や行事、利用者、職員の異動報告等。行事等については共通報告事項で印刷されたもの、他の3つは個人データと個人の生活を手書きでお知らせしている。デイ、ショート開始も行事等の欄に記載しお知らせしている。		今後も継続して実施して行く。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	外部評価、運営推進委員会等より活用している。	○	マンネリ化しない方法を考慮していきたい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	馴染みの職員を確保している。勤務形態を工夫している。		今後も継続して実施して行く。
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ケアマネージャーや介護福祉士の受験者にはシフト上便宜を計っている。		今後も継続して実施して行く。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会には参加している。訪問歯科医(介護保険審査会のメンバー)や同業者との交流は多くなっている。管理者はリーダー研修で“グループホームはつらつ”で実習させて頂いた。運営者は“グループホーム野の花”のミニ講習会に参加した。		今後も継続して実施して行く。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	新入居者の方で原因不明の頻尿が2週間続いたが全スタッフが辛抱強く対処した結果改善されホームにも馴染まれている。平成19年11月デイサービス及びショートステイを開設し、その利用による馴染みながらの入居も試行し、一方、入居者は外来者を受け入れる気持ちと多少の緊張感が身だしなみといった面で良い影響が見られ満足している。		今後も継続して実施して行く。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	得意料理や短歌、仏事などの仕来り等を教えて頂く事も多い。花や料理の名前等。寂しくて寝つきが悪い利用者には職員が添い寝する時もある。魚料理、ズボンの裾上げ等利用者から指導を受ける事もある。		今後も継続して実施して行く。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人が望む過ごし方の支援、本人本位の尊重。人生の先輩として丁寧な言葉かけを心掛けている。		今後も継続して実施して行く。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族、職員スタッフとの話し合い、意見やアイデア、毎日の生活記録を活かしたケアプランの作成を行っている。		今後も継続して実施して行く。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間に応じて、見直しを行い、モニタリングを行い、本人、家族、スタッフと意見交換をしながら新たな計画作成を実施。 本人の状態に応じたケアプランの作成を行っている。		今後も継続して実施して行く。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	平成19年11月のデイサービス及びショートステイの実施に先立ち、諸手続き、職員の研修及びホーム内の体制固めを行い、開設後は既存入居者が混乱しないようスムーズな導入を図った。入居者、ご家族に混乱は無く、むしろ外来者を受け入れる気持ちと多少の緊張感や身だしなみといった面で良い影響が見られ満足している。現状維持に汲々とせず、1つ上のケアを目指す体制が見られ素晴らしい。ショートステイ、デイサービスの利用者と一緒にレクリエーション(歌や体操等)の参加。マンネリ化を防ぐ様、利用者にあったサービスの提供に留意している。		今後も継続して実施して行く。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医、希望医療機関と受診支援している。主治医との関係づくりを大切にしている。通院介助をし主治医との情報を密にしている。月2回の主治医による訪問診療。(緊急時には24時間連絡対応可能。)必要に応じて希望医療機関への受診支援。		今後も継続して実施して行く。
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	主治医と本人、家族と繰り返し話しあい全員で方針を共有している。医療連携体制の認可を取り、湘南クリニックの大山先生の診療を受けながらグループホームで出来る範囲のターミナルケアを実践する体制にある。		今後も継続して研鑽を重ねて行く。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	リハパンの履き替えはタイミングを見ながら居室にて自尊心を傷つけないようなこえかけをさせていただいている。スタッフは病気(認知症)前の生活歴を共有し、人生の先輩として接している。		今後も継続して実施して行く。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課の声かけはしているが本人の希望を優先するようにしている。生活歴、生活記録、等を共有しスタッフのペースにならないように留意している。スタッフ同士の私語を慎むよう努力している。		今後も継続して実施して行く。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理(魚を下ろす、野菜のきざみ)を手伝っていただく。得意な料理を作っていただく。	○	意欲的な利用者が多く個々に合った仕事を作るのに追われる事が多い。個々の利用者に合った仕事を模索しつつ張りのある生活の提供に努めていく。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	髪染めをしたり、汗をかいた時など、ご本人の希望によりその都度対応している。失禁、失便時、又は入浴希望がある時等対応している。		今後も継続して実施して行く。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	調理、お菓子作り、園芸、歌謡、お掃除、ゲーム等お1人お一人のお好みや経験を活かせる支援をしている。	○	「人の役に立ちたい!」「人の世話をしたい!」「人に教えたい!」気持ちのある利用者が多く気持ちと実践のギャップを埋められるような寄り添い方に努めて行く。
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ご自身の買物・通院時海を見て喜んだり、ドライブを楽しんだりしている。週3回~4回は散歩の日がある。希望者や糖尿病患者は雨以外の日は極力にお連れするようにしている。		今後も継続して実施して行く。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	全員共有して鍵を掛けないよう努力している。		今後も継続して実施して行く。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	利用者・スタッフの参加訓練をさせる。近所の消防署員の方の指導を受けている。隣人に元消防署長(運営推進会議メンバー)やスタッフがいる。		今後も継続して実施して行く。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の指示を受けてながら支援している。特に水分量は注意している。嚥下障害のある利用者には時間をかけて対応している。		今後も継続して実施して行く。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を壁飾りを心かけている。スタッフや利用者の家族、近隣の方が花を届けてくれる。		今後も継続して実施して行く。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族が居室の壁飾り・カーテン・テレビ・ソファー等を工夫されている。使い慣れた古いタンス等持ち込んでいただいている。		今後も継続して実施して行く。

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かして下さい。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的に客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明


評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名 (ユニット名)	こすずめの里
所在地 (県・市町村名)	244-0004 横浜市戸塚区小雀町2058-11
記入者名 (管理者)	森谷しげ子
記入日	平成 20年 2月 3日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	認知症があっても普通に人生を全うできるようにスタッフと共に事業所独自の理念をつくりあげている。	○	1人でも多くの人に「認知症の正しい理解」をしていただけるよう努力したい。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者とスタッフは日々の実践の中で実行している。スタッフの個々の認識が理念の共有につながっている。	○	理念を作り3年経過しているさらに進化したものを全員で作りたい。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	管理者やスタッフが利用者と共に生活する姿を常にオープンにしている。来客には利用者とスタッフが一体になって接待するように心掛けている。		
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	隣近所からの職員が多勢いるので気軽に声をかけあっている。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し地域の行事(ゴミ拾い)は必ず参加している。事業所の催物時は近隣に声を掛けている。		
項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	

6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	12月よりデイサービス(3名)・ショートステイ(1名)を開始している。 キャラバンメイトの研修を受講している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	1年に1回全体のケアを振り返る好機と受け止めている。評価をスタッフ全員で共有し次年に向けての目標、心の糧として活かしていけるように努力している。	○	自己評価が職員全員できるように心掛けていきたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	夫々の立場から忌憚のない意見を聞き又、理解し合える場としてサービス向上に繋げるように努力している。	○	ホーム側の出席者を固定せずスタッフの研修も兼ねられる場として取り組みたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	戸塚区高齢支援担当者・原宿地域ケアプラザとは連携がありサービス向上に取り組んでいる。 特養待機3年の利用者があるので相談の回数が増えている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者や職員はリーダー研修や新聞等で知識はあるが現在必要な人がいない。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者や職員はリーダー研修や新聞等で知識はあるが現在必要な人がいない。		
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				

12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約にはゆっくり時間をとっている。又説明日と契約日は別々としている。 入居日又は前日に契約している。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	週に3～4日は個別対応の散歩があり利用者の意見、不満等聞き取っている。 入浴時もマンツーマンでの対応となっている。 夜勤スタッフは介護福祉士等ベテランでゆっくりと時間があり居室で個別対応をしている。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月「こすずめ便り」で報告している。 生活記録、診療報告、バイタル、体重測定や行事、利用者、職員の異動報告等。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	外部評価、運営推進委員会等より活用している。	○	マンネリ化しない方法を考慮していきたい。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	改めて時間はとっていないが、その時々意見を聞きとりしている。	○	重度利用者の入浴方法等。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	近隣に職員を確保している。 徒歩の職員が6名いる。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	馴染みの職員を確保している。 勤務形態を工夫している。		
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
	○職員を育てる取り組み			

19	運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ケアマネジャーや介護福祉士、受験者にはシフト上便宜を計っている。		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会には参加している。訪問歯科医(介護保険審査会のメンバー)や同業者との交流は多くなっている。管理者はリーダー研修で“グループホームはつらつ”で実習させていただいた。運営者は“グループホーム野の花”のミニ講習会に参加した。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	本や新聞等の有効記事等コピーして配布したりしている。相談しやすい環境作りを心掛けている。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	リーダー研修や資格修得時等給与に反映させている。人材の育成を肝に銘じている、又年配職員には指導育成を依頼している。	○	職員の年齢や経験、勤務状態は大きく違っても個々が夫々に全力投球できるよう調整していきたい。マニュアル通りでなく「考えて工夫できる」職員を育てたい。

Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応

23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族だけでなく本人も来訪していただき本人納得の上のサービスを心掛けている。ショートステイを利用して本人に見極めていただく。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	経済との問題、利用者の問題行動等、初期には隠されることが多いので時間をかける様心掛けている。		
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	昨年12月デイサービス(3名)ショートステイ(1名)を受け入れている。ショートステイを利用して本人に見極めていただく。		

26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気にならぬに馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	新入居者の方で原因不明の頻尿が2週間続いたが全スタッフが辛抱強く対処した結果改善されホームにも馴染まれていく。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	得意料理や短歌、仏事などの仕来り等を教えて頂く事も多い。花や料理の名前等。寂しくて寝つきが悪い利用者には職員が添い寝する時もある。魚料理、ズボンの裾上げ等利用者から指導を受ける事もある。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族個々の悩み等は一緒に考えていく様努めている。	○	嚥下障害のある利用者の家族がドクターと一緒に「胃ロウ」やターミナルケアについて話せる場所の設定。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人と家族の調整役を心掛けている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	散歩時声を掛けてくれる人がいる。 利用者の為に道端に花を植えて楽しませてくれる人がいる。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	職員全員が共有して把握している。 孤立しない様気配りをしている。席替え等で対処している。		
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	手紙等の転送はしている。(費用が滞納し自主的に退去されたご家族には関わっていたが、再入居希望時空室がなかった。		

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握

33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人が望む過ごし方の支援、本人本位の尊重。人生の先輩として丁寧な言葉かけを心掛けている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメント表の記録の徹底、本人の家族からの把握に努める。個々の記録の把握に努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	本人が望む過ごし方の支援、本人ペースの尊重。傾聴を心掛けています。挨拶や、言葉使いを丁寧に心がけている。		

2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し

36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族、職員スタッフとの話し合い、意見やアイデアを反映したケアプランを作成。毎日の生活記録を活かしたケアプランの作成を行なっている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間に応じて、見直しを行い、モニタリングを行い、本人、家族、スタッフと意見交換をしながら新たな計画作成を実施。本人の状態に応じたケアプランの作成を行なっている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の個々の生活記録を記入、スタッフ同士が記録を確認し、情報を共有しながら、実践や介護計画の見直しに活かしている。		

3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ショートステイ、デイサービスの利用者と一緒にレクリエーション(歌や体操等)の参加。 マンネリ化を防ぐ様、利用者にあったサービスの提供に留意している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	月1回のボランティアの参加、運営推進委員会への参加をし、協力しながら支援している。 利用者の友人がk年に1~2回踊りに来てくださる。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	地域のケアマネジャーからの紹介が増えている。 (入居者 デイサービス ショートステイ等)	○	極力カンファレンスや話し合に参加できる様にしていきたい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	老健の順番が廻ってきた利用者には契約通りでなく一週間前でも便宜を計っている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医、希望医療機関と受診支援している。主治医との関係づくりを大切にしている。通院介助をし主治医との情報を蜜にしている。 月2回の主治医による訪問診療。(緊急時には24時間連絡対応可能。)必要に応じて希望医療機関への受診支援。		
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	主治医は内科だが、認知症に詳しい為、診断や治療を行なっている。必要に応じて、他の医療機関への対応を行なう。		
	○看護職との協働			

50	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	リハハンの履き替えはタイミングを見ながら居至にて目撃心を傷つけないようなこえかけをさせていただいている。スタッフは病気(認知症)前の生活暦を共有し、人生の先輩として接している。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	帰宅願望のある方で帰りたいとの申し出にはご本人に決定していただき、スタッフが買物があるので一緒に同行させていただく。～していいですか？等利用者の自己決定の余地がある問いかけをしている。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課の声かけはさせていただきますが本人の希望を優先していただいています。 生活暦、生活記録、等を共有しスタッフのペースにならないように留意している。 スタッフ同士の私語を慎むよう努力している。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	髪染めを希望されるとスタッフと一緒にヘヤーカラーを買いに行き染めさせていただいています。 カット技術がプロ並みのスタッフがいるが希望があれば付き添ってお連れする。		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理(魚を下ろす、野菜のきざみ)を手伝っていただく。得意な料理を作っていただく。	○	意欲的な利用者が多く個々に合った仕事を作るのに追われる事が多い。 個々の利用者に応じた仕事を模索している。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	お好きな飲み物を伺って、摂っていただく。 コーヒーやお茶を自由に飲んでいる利用者もいる。		
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	全介助の方も排泄パターンを観察して、トイレ誘導し排泄していただく。 二人介助で対応している。		
	○入浴を楽しむことができる支援			

57	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	髪染めをしたり、汗をかいた時など、ご本人の希望によりその都度対応させていただいています。 失禁、失便時、又は入浴希望がある時等対応している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	ご本人の希望を支援しています。 スタッフは生活記録を共有している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	調理、お菓子作り、園芸、歌謡、お掃除、ゲーム等お1人お一人のお好みや経験を活かせる支援をしています。	○	「人の役に立ちたい!」「人の世話をしたい!」「人に教えたい!」気持ちのある利用者が多く気持ちと実践のギャップを埋められるような寄り添い方を学んでいきたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	病院通院時・ご自身の買い物等のご自分で精算していただいています。 お金を持っていないと不安になる利用者には家族と一緒に対応している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ご自身の買物・通院時海を見られたりドライブを楽しまれています。 週3回～4回は散歩の日がある。 希望者や糖尿病患者は雨以外にお連れしている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	家族との外食・買物を楽しまれています。 多忙で家族が疎遠な利用者には声をかけさせていただくが遠出を好まない利用者もいる。		
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族・親戚の方への手紙を書くための葉書・封筒の準備、ポストへ投函するための付添をしています。 了解をとり家族の生活に配慮しながら支援している。		
	○家族や馴染みの人の訪問支援			

64	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	お茶だし、ご本人の近況報告等を手短にお話させていただきます。 スタッフ全員が挨拶できるようにしている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	移動時・散歩時は、車椅子のベルトはしますが、停止したときは、ベルトははずします。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	全員共有して鍵を掛けないよう努力している。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	安全確認は全てのスタッフが心がけています。 収集癖のある利用者には気持ちを配慮しながら安全確認をしている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	ご自分の髪の毛を鉗を使用し切られる方がいる為、目に付かぬ場所へしまっています。 家族の了解のもとアイロンを持ち込んでいる利用者がある。 安全確認をしている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	知識をしっかり学び意識をして事故防止に取り組んでいます。 転倒が無くても骨折が起きていることもある。 過剰防衛のないよう、又万一事故に直面した時、スタッフの離職の引き金とならない様、取り組んでいきたい。		
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	訪問医への緊急連絡、救急車要請への落ちつた対応するための人目で分かるマニュアルの張り出し。 非難訓練は定期的に行なっている。		
	○災害対策			

71	火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	利用者様・スタッフの参加訓練をしています。近所の消防署員の方の指導を受けています。隣人に元消防署長やスタッフがいる。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	日頃より、ご家族の方と話し合いをさせていただいています。	○	ターミナルケアについて話し合う機会を作りたい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	引継ぎ等、しっかりとさせていただき訪問医の指示をいただいています。24時間対応の訪問医と日曜、祭日 受入れの病院を確保している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬支援を努めています。利用者の薬表を共有している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	体の動きにくい方でも、トイレ介助にて毎日の日課とさせていただいています。毎朝の果物、野菜、豆等メニュー作りを考慮している。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	夕食後義歯の方はスタッフが義歯の洗浄をし、義歯でない方は、声かけにて口腔ケアをさせていただいています。訪問歯科医に口腔ケアの指導を受けている。		
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の指示を受けてながら支援しています。特に水分量は注意している。嚥下障害のある利用者には時間をかけて対応している。		
	○感染症予防			

78	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	手洗い・うがいを励行しています。 毎年11月にインフルエンザの予防接種をしている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板・ふきん・タオル等の消毒に努めております。 まな板、包丁は野菜用、肉用に分け必ず火を通すように努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関には寄せ植えをし、庭には畑・果物木等があり親しみやすく工夫しております。 玄関には鍵がなく、出入りしやすい。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を壁飾りを心かけております。 スタッフや利用者の家族、近隣の方が花を届けてくれる。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルを囲みテレビを見たり、話をされたりと過ごされています。 共用空間はテーブルが3個、リビングにもテーブルがある。		
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族が居室の壁飾り・カーテン・テレビ・ソファー等を工夫されています。 使い慣れた古いタンス等持ち込んでいただいている。		
	○換気・空調の配慮	全室に設置した各部屋の換気を確保していただき、その後		

84	<p>気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>	<p>食堂に米られると各部屋の換気をさせていたたき、その後室温にさせていただきます。 居室には乾燥を防ぐ為、濡れたタオルを用紙している。 利用者の生活習慣に合わせて居室の温度調節をしている。</p>		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>トイレ・浴室には手すりがあり、車椅子の方でもつかまり立ち上がっていただけるように工夫されています。 昇降できるベッドやサイドレールの設置など。</p>		
86	<p>○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>	<p>スタッフがゆっくり向きあい、話を聞くことで、混乱を最小限にと工夫しています。 混乱時の対応を共有し、スタッフが一体となり対処している。</p>		
87	<p>○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>	<p>畑で成長した野菜・果物を利用者様と一緒に収穫を楽しんでいただいています。 裏庭にはミニ池があり、メダカを飼育している、夏にはホテイアオイの花が楽しめる。</p>		

V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

・利用者の「役に立ちたい！」という切実な思いを実践の中で取り組んでいる。洗濯たたみ、掃除、裁縫、料理（皆でケーキ、餃子作り、もやしの根とり、フキの皮むき、庭で採れた甘夏ママレード作り、個々で煮豆、おから、1尾の魚をさばく等）。朝・夕 嚙下訓練を目的に体操（口腔体操含）、歌を取り入れている。全職員が指導でき、マニュアル通りでなく個々に工夫している。